

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 5月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	1270902974		
法人名	有限会社 コンフォートプレイス		
事業所名	グループホーム みかんの樹 松ヶ丘		
所在地	千葉県船橋市松ヶ丘3-63-30 (電話)047-462-0010		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年4月18日	評価確定日	5月10日

【情報提供票より】 (19年3月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 11.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造在来工法		造り
	2階建て		1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (3月 30日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共立習志野台病院、千葉徳州会病院、デンタルケアサポート
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針に明記された「自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」について、管理職員が自ら実践していることが、当事業所の第一の特徴といえます。 ・当事業所は、運営推進会議で「松ヶ丘のめざすもの」として(1)地域行事への積極的参加(2)介護相談室、介護教室の開催を挙げており、地域連携への強い志向が見られます。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価(H17.12.21)では、改善課題として職員の「ストレス解消策」が挙げられております。これについて事業所としては、事務室にベッドを搬入して、体調の悪くなった職員の休憩・仮眠にあてる準備をしましたが、実際には全く使用されず、体調不良の際は自宅に帰って休養する方法をとってきました。今後ともその方法の継続が望まれます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に際し、職員全員が全評価項目の評価を行っております。その結果を管理者等と検討し合って対策を講じております。この方法は事業所の状態や課題を共有化するためには優れた方法であり、今後とも継続実施が期待されます。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>本年1月に第一回の会議が開催されました。メンバーは行政サイド、近隣特養ケアマネジャー、民生委員、家族代表、職員です。施設見学、会議方法の検討等のあと、事業所側より、みかんの樹松ヶ丘の「めざすもの」の提案がありました。今後の継続実施が期待されます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日常的には、各担当職員が各家族の苦情、意見のヒヤリングを行い、必要に応じて月一回の職員会議で対応しております。家族会も3ヶ月に一度実施され、具体的な意見等が出されております。利用者アンケートでもほぼ聞き入れていると答えており、満足な状態と考えられます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の一員としての各種行事への参加さらに事業所内での催しへの地域の方々の参加(ボランティアを含む)が盛んに見られます。基本は、利用者の自由な外出支援がベースにあり、近隣の畑から野菜を分けてもらったり、町会の朝の掃除への参加を申し込んだり、様々な連携を進めており、今後もその継続が期待されます。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の一員としての各種行事への参加さらに事業所内での催しへの地域の方々の参加(ボランティアを含む)が盛んに見られます。基本は、利用者の自由な外出支援がベースにあり、近隣の畑から野菜を分けてもらったり、町会の朝の掃除への参加を申し込んだり、様々な連携を進めており、今後もその継続が期待されます。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針としては、「自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」を1, 2階に掲示しております。利用者が、自分の時間や好きなことの制限を受けずに、家庭生活の延長上で過ごせるような支援を行っております。	○	今後、地域密着としての理念、運営方針を新たに検討することが期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が事業所内研修等において、研修資料に基づき運営方針を理解し、その実現のための取り組みに挑戦しております。月1回の職員会議の席上で運営方針の共有について話し合いがなされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として町会の各種行事(敬老会等)に参加する一方、事業所内での行事(納涼祭等)への地域の方々の参加、交流がなされています。また、地域のボランティアによる日舞、民謡、尺八、コーラス等のレクリエーションが事業所内で盛んに行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審にあたり、職員全員に外部評価の意義および内容について説明し、各人より「自己評価票」の全項目の評価を提出してもらい、対応策を検討し合うといった内部研修を行っております。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開業後2年近く、平成19年1月に第一回会議が開催されました。行政サイド、近隣特養ケアマネジャー、民生委員、家族代表、職員が構成メンバーです。会議は施設見学、事業概要説明等に続いて「グループホーム松ヶ丘のめざすもの」として「地域行事への積極参加・介護相談室、介護教室の開設」が提案されました。	○	会議は、2ヶ月に1回の目標で開催が予定されておりますが、行政サイド(地域包括支援センター)の積極的な参加の是非が今後の盛り上がりの課題になると思われます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政側主催の各種研修(ノロウイルス対策、認知症対応等)への職員の参加のほか、市中心のグループホーム連絡会での情報交換等多彩な分野で行政と連携しております。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	当事業所では、職員1人について2～3名の利用者が担当割されており、面会の都度、利用者の健康状態等が家族に報告されております。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員が各家族から意見を聴取する以外に、管理者が全体の「苦情・相談窓口」となっており、それらの情報を月1回の職員会議で検討、対策の実施をしております。さらに、3カ月に一回の「家族会」で家族側より意見、苦情等を直接聞いて対応しております。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者アンケートでも一部に職員の異動について触れられていますが、事業所側としては、異動、離職については、最小限に抑えるよう努力を重ねています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらのトレーニングのほかに、外部研修では、ノロウィルス・認知症等の専門研修を、内部研修では、今回の外部評価について全員が全ての項目の評価を行う研修、運営方針の研修等充実した内容の研修を行っております。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会(3ヶ月に一度開催)の理事として活動しているほか、介護保険事務所の交流会(年1回)等にも参加して、交流を深めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して入居できるように、本人が納得されるまでホームに来院できるように配慮しています。利用者が来所時には、職員がコミュニケーションを多くするようにし、利用者の不安を軽減するように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意分野、例えば園芸の得意な方から野菜を植える時の肥料の必要性があるかを教わるなど、活き活きと共に暮らせる関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別記録ファイルを作成し、例えば掃除が好きで手伝いが出来る方には、役割をお願いして意向に添うように支援しています。ゆっくりしたい利用者には、本人本位に自由を尊重しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一日の感情の動きを把握し、時間帯による良し悪しによって、介護計画を作成する参考にしています。また、訪問マッサージ師が週2回、来所しておりケアプランに取り入れています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しと、状態の変化によって臨機応変に介護計画を見直しています。担当職員が作成した計画を、週に1回来る看護師、ケアマネと共にケアカンファレンスを開き、現状に即した介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の面会に関しては制限をしていません。家族アンケートでは、面会に来た時に日誌を見せて貰い、日常生活状態が分かりやすい。また、家族への連絡がよく取れています、という満足度の高い回答でした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回協力医療機関から、医師が往診に来ています。他の協力医療機関で、外来に行けば優先的に診察を受けられる病院や歯科へのサポートは毎週あり、口腔ケアの指導もなされています。また、利用者で以前からのかかりつけ医のある方は、継続して連携に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針を定め職員、家族、関係者に周知し、方針の共有がなされています。	○	看取りに関する指針の他に、利用者や家族がこの事業所以外の場所で終末期を迎えたい要望に応え、退去支援をしています。重度化や終末期の対応は、検討の余地があります。しかし、管理者が「家族と同じ思いで」取り組んでいく姿勢は今後の取り組みに繋がると思われます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が共有スペースで、例えば失禁した場合は、他の利用者に気づかれないように、個室に連れていくなどの対応をしています。個人情報の取り扱いは、書面にて同意書を取り交わしています。個室への入室の際は、ノックや声かけを行い、プライバシーに配慮しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食の時間を決めないで、それぞれの利用者のペースを大切にしています。日中は、ゆったりとしたスペースのリビングで、おしゃべりをしたり、テレビを観たり、リラックスして過ごしている光景が見られました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者の方に、利用者の要望に応えるように依頼しています。利用者で、料理の得意な方、好きな方には、材料を職員と一緒に刻んだり、盛りつけを頼んだり、男性の利用者がお皿をふく方もいて、生活を共にしています。行事食や誕生日メニューにも気遣いがなされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は、出来るだけ利用者のタイミングに合わせるように、午後に声かけをして無理な場合は、夕方にまた声かけをし、利用者のニーズに応じています。浴室は、手すりが多く取りつけてあり、片マヒの方でも自分で出来る事は、行われるように配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野、例えばゴルフや剣道の素振りを職員が教わり、利用者の生活歴を活かし、生き活きと暮らせる様に支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝の散歩、近隣のコンビニやパチンコに行き、利用者のニーズに応じています。ベランダのプランターに職員と花を植えるのは、外の空気に触れる機会に繋がると思われます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけていませんが、人感センサーで音楽が流れ、利用者の動きを把握できる工夫をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「消防計画」に基づき、年2回の消防訓練を行っています。そのうち1回は消防署員と一緒に通報・初期消火・心肺蘇生の訓練を本格的に行っております。なお、日常的には毎日の避難通路の物品点検等きめ細かくチェックを実施しております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーは、業者が朝、昼、夕食と一日の総カロリー計算を出しています。水分摂取に関しては、食後の他に、10時と15時にちょっとしたおやつとお茶を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には利用者・家族の「目線」で生活を楽しむことをベースとしております。すなわち、庭先の花を食卓に飾ったり、割り箸で玄関飾りをつくったり、利用者の手作り作品や写真を飾ったり、家庭的な居心地よさを工夫しております。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、クローゼットは備え付けですが、それ以外は自宅で利用していた家具、調度品類(テレビ、ラジオ、タンス、仏壇等)を持ち込んで、自宅での生活に近い環境で過ごせる工夫をしております。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。